



行政視察等報告書

平成27年8月18日

米子市議会議長様

会派名 改進
 代表者氏名 遠藤通 
 提出者氏名 岡田啓介 

下記のとおり報告します。

記

項目	<input type="checkbox"/> 現地調査 <input checked="" type="checkbox"/> 行政視察 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動 <input type="checkbox"/> 研修会への参加 <input type="checkbox"/> 会議への参加
参加者	遠藤通、戸田隆次、岡田啓介
期日	平成27年8月5日から平成27年8月7日まで
〔概要〕（年月日・場所・内容）	
8月5日 兵庫県豊岡市 地域主体交通「チクタク」の取り組みについて	
8月6日 兵庫県神戸市 摂津本山駅の橋上化及び南北自由通路等整備事業について	
8月7日 株式会社クロモセンター 神戸医療産業都市への進出と産学官の連携について	
〔所感〕	
別紙のとおり	
経費	旅費総額 139,073円

●豊岡市の持続可能な地域公共交通をめざしてについて

1) 視察目的

豊岡市内の路線バス運営管理をしていた全但バス（民間）が、採算性・経営環境を踏まえ、バス路線26線の内赤字である11路線を休止したため、市として公共交通確保の基本方針を定め、交通体系（交通弱者対策等）の確立を図っている事について調査・研究するため。

2) 豊岡市の概要

- ・ 1市5町が合併（平成17年4月）
- ・ 面積：697.7km²
- ・ 人口：85,592人
- ・ 高齢化率：28.3%
- ・ 森林面積：79.3%

3) バス交通体系の確立に取り組んだ理由

- ・ 路線バスである全但バスの赤字路線運行休止
- ・ 市町村合併による豊岡市面積の拡大
- ・ 過疎化・高齢化（80%の地区あり）の進捗
- ・ 地域の移動手段の確保
- ・ 地域移動手段確保に対する地域運行システム（チクタク）の新規導入
- ・ バス交通体系イメージ (別 添)

4) 公共交通確保の基本方針

- ①「市民の足を守る」を基本理念とする
- ②地域の需要や特性に応じた運行とする
- ③地域で支え合う持続可能な公共交通とする
- ④継続的に事業の評価と見直しを行う

5) 路線バス以外の地域交通

①豊岡市有償旅客運送事業～市営バス「イナカー」

- ・事業名称：市営バス「イナカー」
- ・事業主体：豊岡市
- ・運行主体：一般旅客運送事業者2社（プロポーザルによる総合評価方式で選定）
- ・路線数：7路線20系統
- ・使用車両：12両（市所有車両を転用）

②豊岡市有償旅客運送～「チクタク」

- ・事業名称：地域主体交通「チクタク」
- ・事業主体：豊岡市
- ・運行委託先：地元運営組織（4団体）
- ・路線数：4路線7系統
- ・使用車両：4両（市所有車両を転用）

6) 「チクタク」の事業概要

- ・名称：チクタク
- ・運行委託先：地域の運営団体 運転手当：3、000円／日
- ・車両：市公用車を無償貸与 事務委託料：20,000円／月
- ・運転手：ボランティア運転手を地域で確保
- ・事務員等：運行管理、事務員を地域で確保
- ・利用者：地域住民（会員登録）
- ・ダイヤ：地域で決定 （週3日運行）
- ・停留所：地域で決定（地区内フリー降車）
- ・運賃：100～200円
- ・運行方法；定時定路線運行 （予約制）
- ・運行条件
 - ＜運営協議会は1小学校区につき1つとする
 - ＜車両は1台とし運行は週3回を上限とする
 - ＜路線バスとの重複は出来ず、運行は各地域拠点と居住地域間とする

7) 考察

豊岡市は、市内路線バスを運営管理していた全但バスの経営合理化により、大幅な路線バスの休止問題が生じたため、市町村合併による行政区域の拡大・高齢化が著しい過疎地域の交通手段の確保に迫られ、市長の強い

政策判断により豊岡市独自の交通体系の確立を図り、特に移動交通手段がない高齢者への対策に重点をおいたとの事です。交通体系は、「チクタク」→「イナカー」→「路線バス」の交通接続がスムーズとの事。一方、ボランティアの運転者確保に苦慮したとの事です。

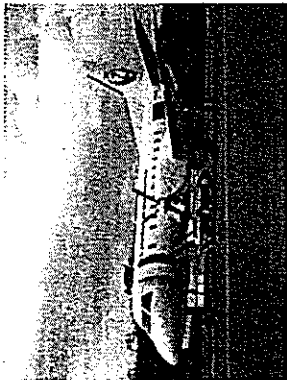
本市も「だんだんバス」を運行し、市民の移動手段を確保支援しているところですが、近年、少子高齢化の進捗化が著しくまた、高齢者の方々においては自動車免許の更新が出来なかったとの様態を仄聞します。今後、交通弱者の方々に対する交通移動手段の確保に向け、豊岡市の交通体系を参考とし、本市の交通体系を再検証したいと思料します。



豊岡市の公共交通網

凡例

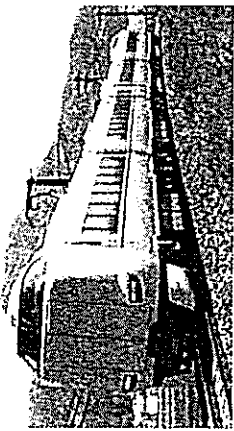
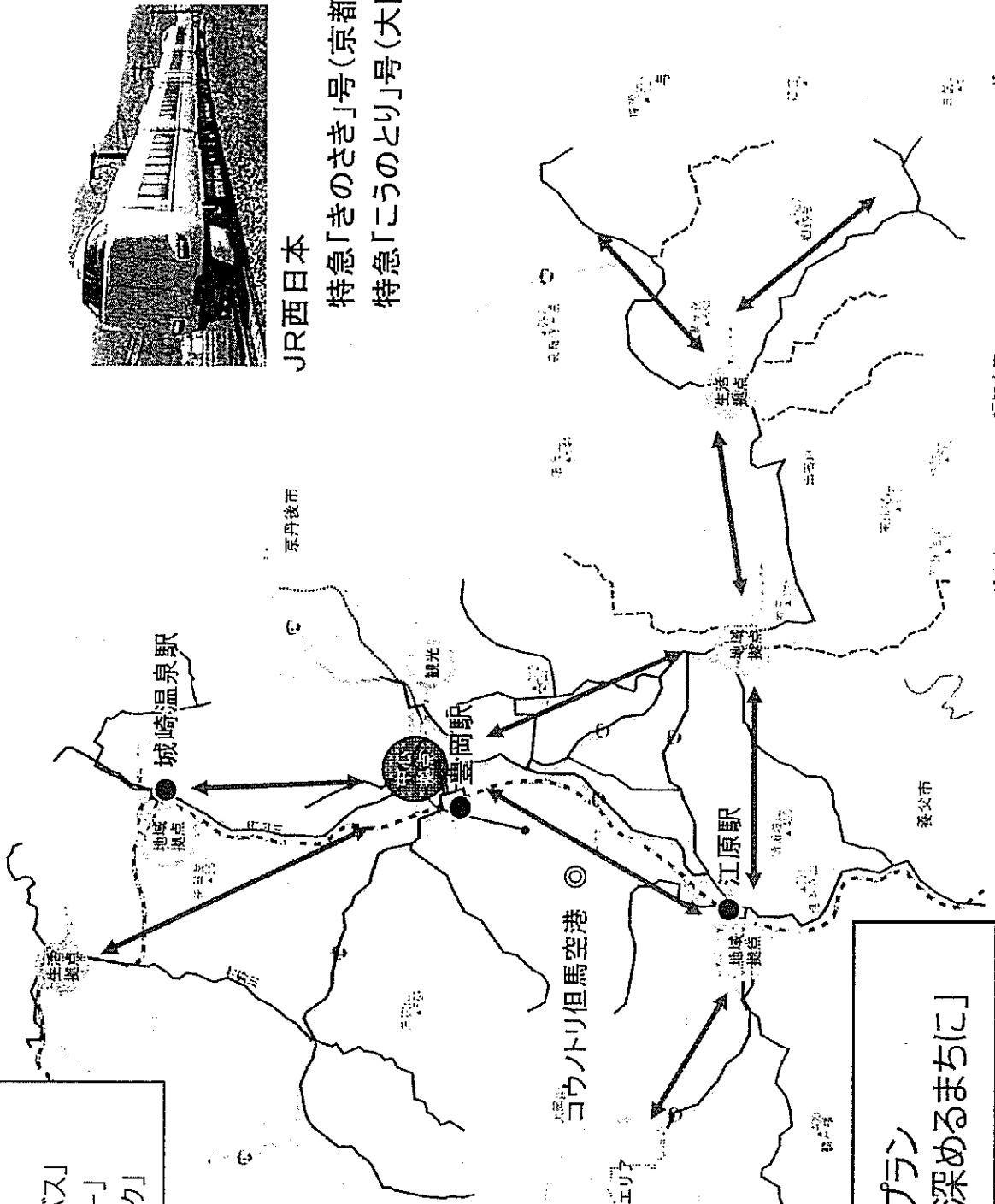
- 路線バス「全但バス」
- 市営バス「イナカー」
- - - 地域交通「チクタク」



日本エアコミュニティー

大阪(伊丹)空港

— コウノトリ但馬空港



JR西日本

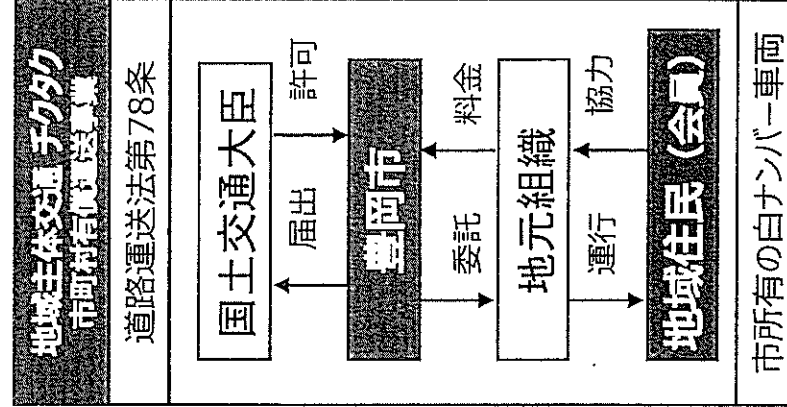
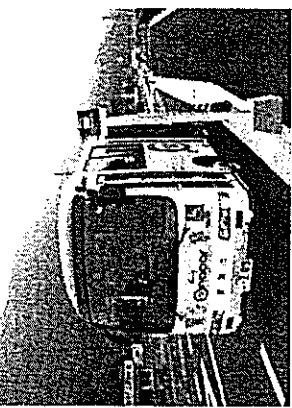
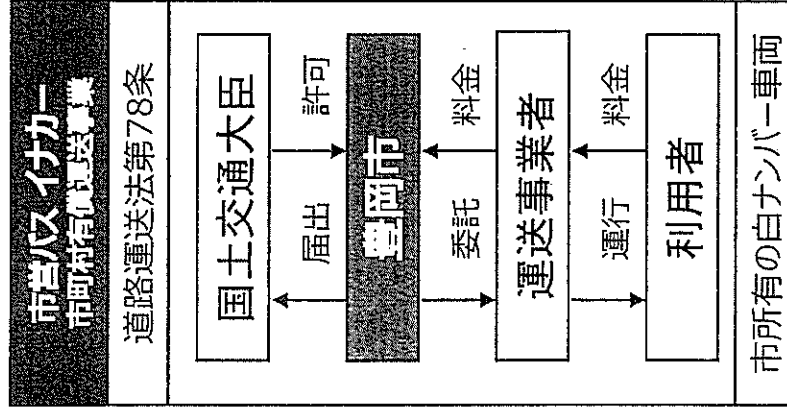
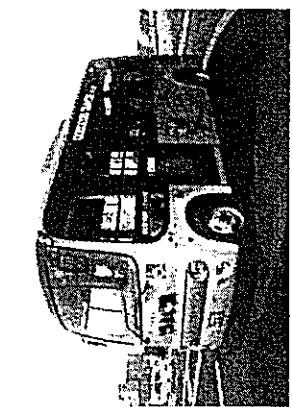
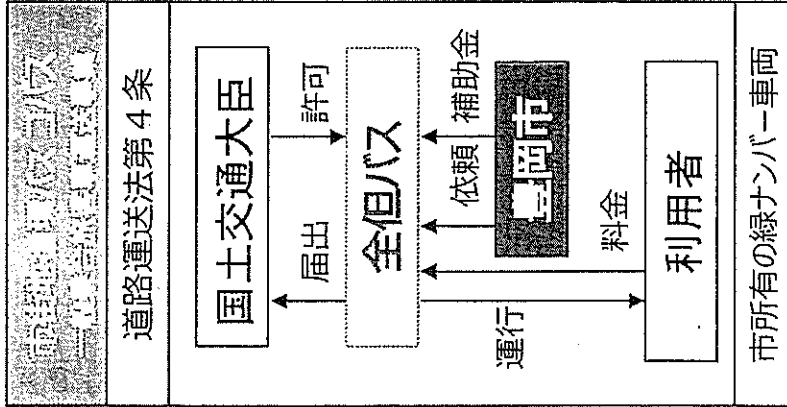
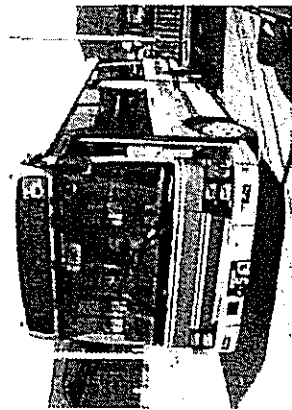
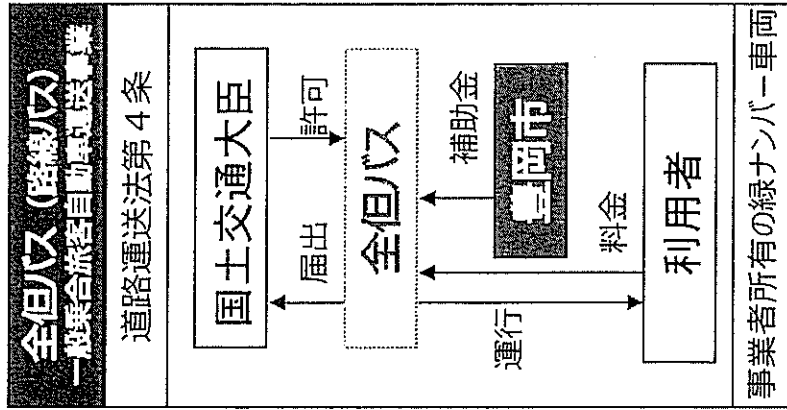
特急「きのさき」号(京都)

特急「こうのとり」号(大阪)

都市計画マスタープラン
「つながり・連携を深めるまちに」



バス交通の種別

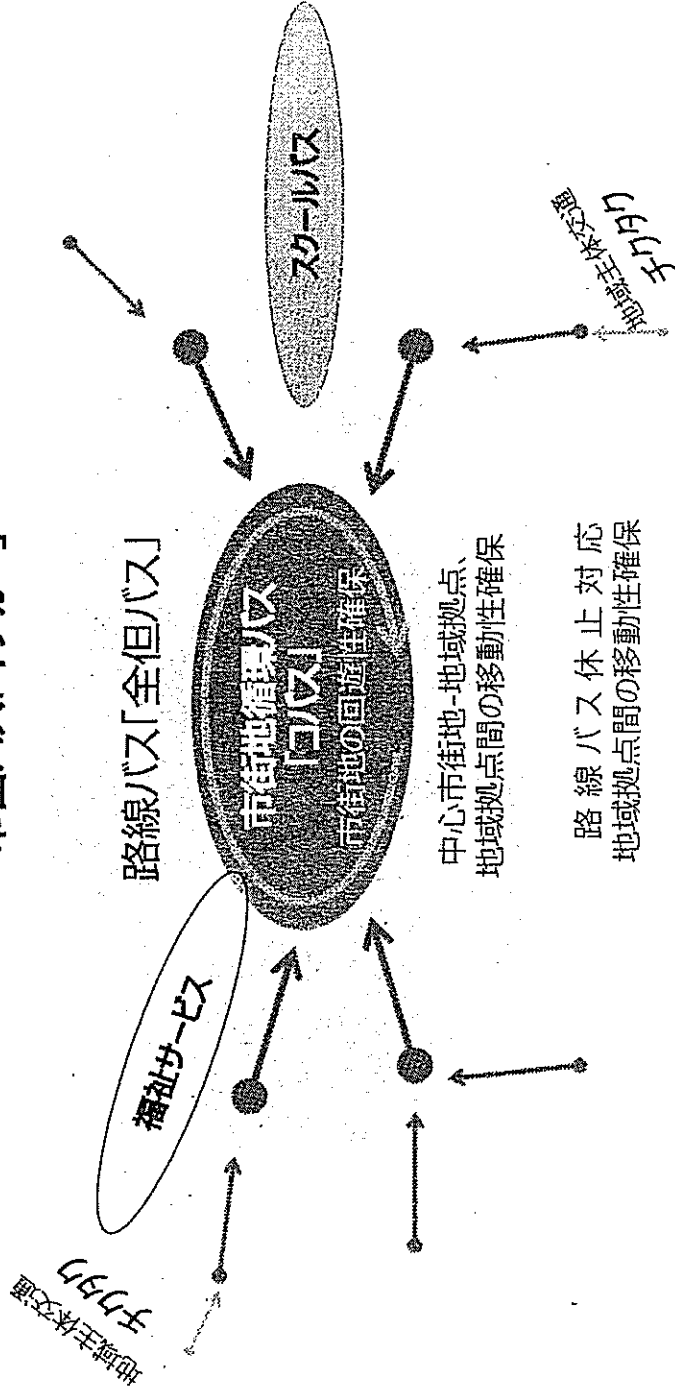




バス交通体系イメージ

地域主体交通
チクタク

市営バス「イナカー」



交通空白地域における地域の
主体の取組みを市が支援

● 摂津本山駅自由通路整備事業について

1) 視察目的

本市において、米子駅南北自由通路整備事業計画について推進中であり、その整備計画推進に当り、先進事例である摂津本山駅の改修整備事業状況を把握し、多角的に知見を深め米子駅南北自由通路事業に意見提言するため。

2) 事業概要 (摂津本山駅自由通路整備 別 添)

- ・ 整備内容：延長 4.5 m、幅員 6 m、E V 2 基
- ・ 事業期間：平成 22 年度～27 年度（平成 25 年度に一部供用開始）
- ・ 総事業費：約 2.7 億円（国 1 / 3 市 1 / 3 J R 1 / 3）
- ・ 維持管理については、「鉄道事業者の施設」として J R 西日本が行う
- ・ エスカレーター 2 基（昇りのみ 今後下りは J R の負担により整備予定）
- ・ 自由通路は都市計画決定（道路法における市道認定はしていない）
- ・ 整備計画図における店舗部分は J R により整備（4 店舗入居営業）

3) 事業化に至った理由

- ・ J R 神戸線で唯一バリアフリー化がされていなかった
- ・ 乗降客等が 45,000 人 / 日である
- ・ 地元住民からの強い要望がなされた

4) 重要事項

- ・ 地元住民とのコンセンサスを十分に図る事

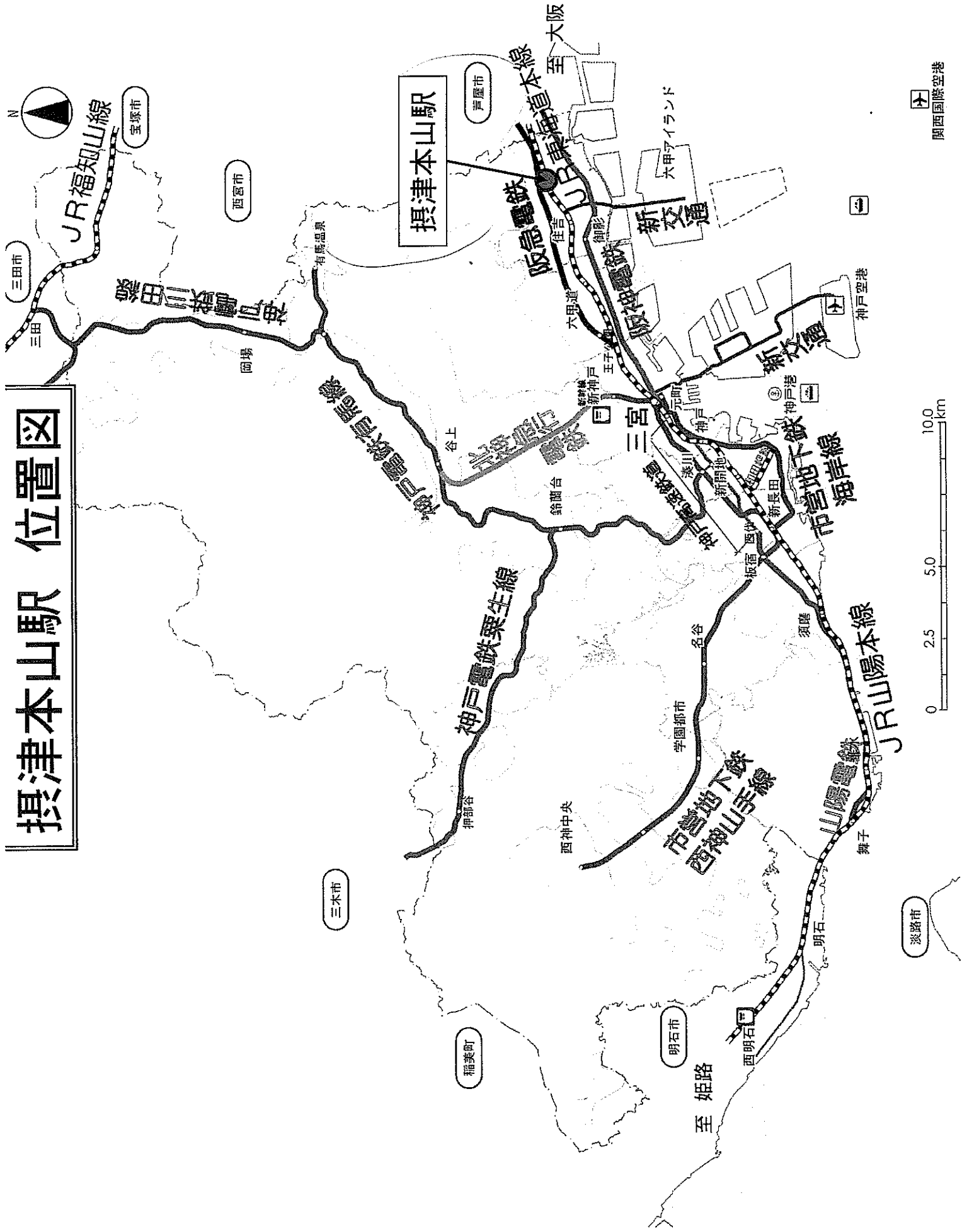
- ・地元住民において、途中下車したい駅を目指している
- ・地元住民が中心となり、美しい町岡本（摂津本山駅周辺街）を目指す
- ・同事業は、国交省の自由通路の整備及び管理に関する要綱を適用

5) 考察

摂津本山駅の自由通路は、線路が2線のため延長45mでありコンパクトである。米子駅の場合は、引込み線があるため延長105mと計画しているが、将来的な都市構想を鑑みた場合、引込み線の存続についてJRと十分な協議を行い、自由通路の延長を確定（例、引込み線を他に移動し、引込み線用地を開発した上、自由通路延長60m程度に整備）するべきである。

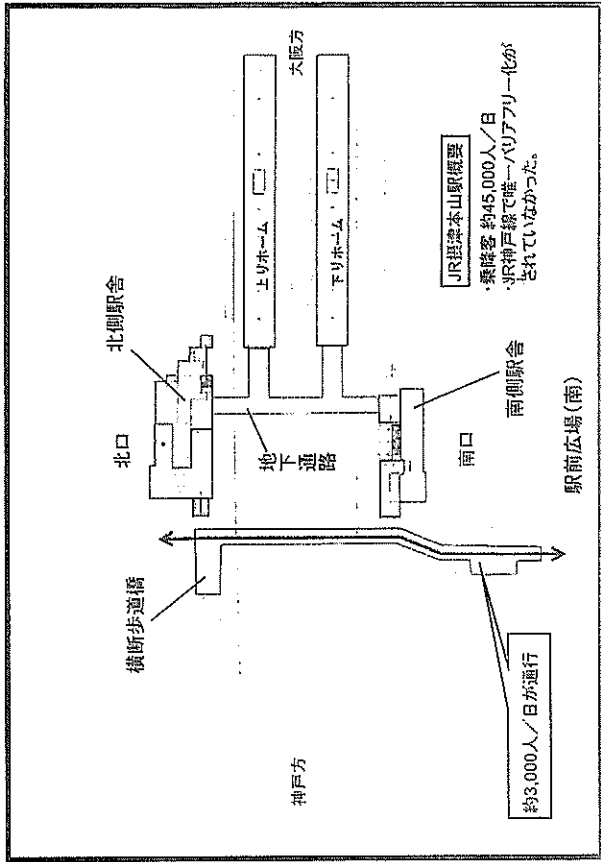
また、摂津本山駅周辺の住民が、途中下車したくなる街づくりを目指し活動をされていると教示を受けました。米子駅は旧来交通の結節点で、山陰の玄関として栄えてきた経過があり、この度の米子駅自由通路整備工事を契機とし、今後の米子駅のあり方・有り様について、市民の皆様方と多角的に考えたいと思料します。

摂津本山駅 位置図

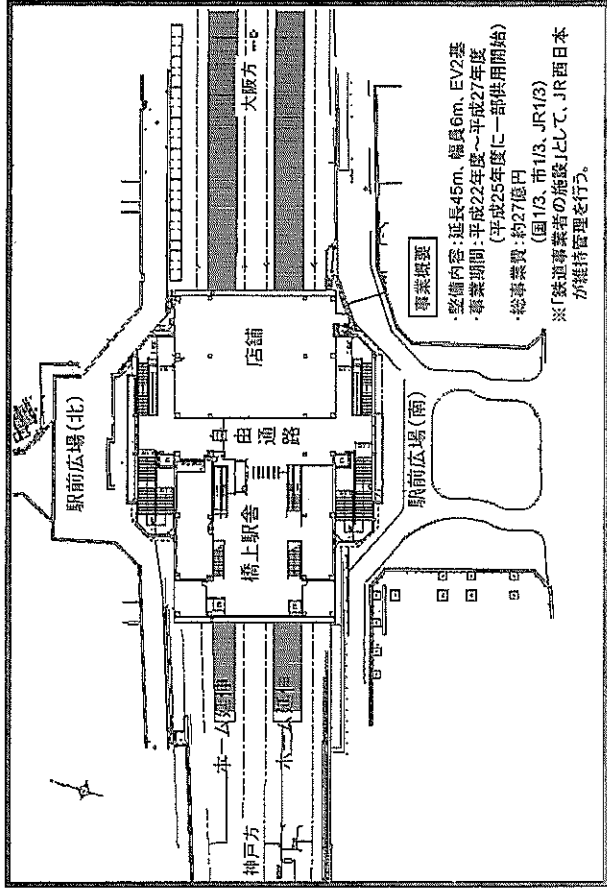


摂津本山駅自由通路整備

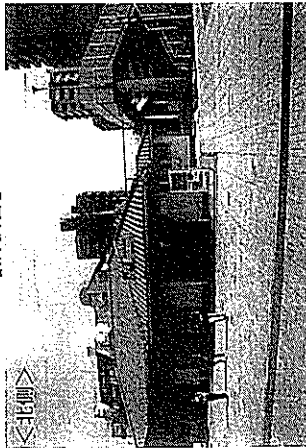
整備前



整備計画図



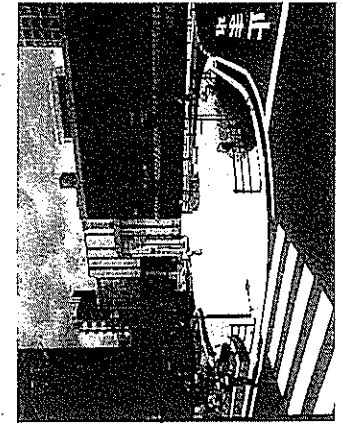
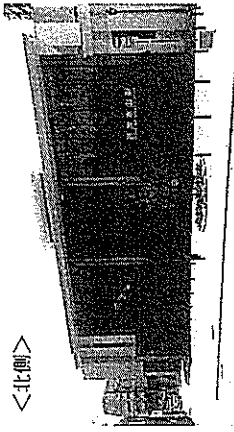
【旧駅舎】



＜整備スケジュール＞

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
橋上駅舎・自由通路	☆ 新市計画決定 詳細設計	仮駅舎新築 旧駅舎撤去	仮駅舎新築 旧駅舎撤去	仮駅舎撤去	仮駅舎撤去	
(南側駅舎)						
(北側駅舎)						
(橋上駅舎・自由通路)		橋上駅舎・自由通路(鉄道橋脚部・西側階段)、EV設置、ホーム延伸工事		1期工事完成 (自由通路一部供用開始)		
					2期工事完成 (自由通路全体供用開始)	
駅前広場 等		駅前広場(南)撤去 横断歩道橋撤去				駅前広場復旧(北・南)

【整備後】



神戸医療産業都市への進出と産学官の連携について

8月7日10時より株式会社クロモセンターの神戸研究所に、会派改進黨の3名で視察に行きました。株式会社クロモセンター代表取締役の松岡氏と、公益財団法人先端医療振興財団の坂本氏に対応して頂きました。株式会社クロモセンターの神戸研究所は、HI-DEC（神戸健康産業開発センター）内にあります。HI-DECは、神戸市、中小機構、先端医療振興財団のバックアップにより運営されています。現在、株式会社クロモセンターは、IPS細胞の検査業務において国内トップシェアを誇ります。また、抗体医薬の開発においては欠かせない企業となっております。松岡氏曰く、本来であれば、地元の米子市でこの神戸研究所で行っている業務も行う考えでしたが、神戸市から5年前より熱烈なアプローチを受け、地元米子市に適する建物もなかったことから、神戸市進出を決めたとのことでした。この度の視察は、まず株式会社クロモセンターの現状を理解し、神戸市ポートアイランドで行われている神戸医療産業都市構想を直接、拝見することでした。株式会社クロモセンターにおかれましては、まだまだ事業拡大を考えているとのことであり、米子市での事業拡大にも意欲ありとのことでした。先端医療創造都市よなご構想の為にも、是非とも鳥取大学との連携も踏まえながら推し進めて頂きたいと考えます。また、神戸市の神戸医療産業都市構想は、ポートアイランドにおいて、様々な研究機関(理化学研究所、神戸大学インキュベーションセンタ等)を既に誘致されています。ポートアイランド内の医療関連企業数は、平成24年度末で233社、雇用者数は、約5400人とのことでした。現在企業数は300社を越えているとのことでした。神戸市役所には、バイオ、医療の専任担当がおられるとのことでした。また、松岡社長の手配で、次世代バイオ医薬品製造技術研究組合の神戸GMP施設を見学させて頂きました。高性能細胞培養技術の開発等を行うこの施設は、平成25年経産省の補助金により建設されたとのことでした。日立製作所、第一三共、島津製作所など、25企業、2団体、1国立法、2大学により構成されています。株式会社クロモセンターもメンバーの一員になっておられます。当初、松岡社長は、米子市への誘致活動を進めていましたが、神戸市に決定したとのことでした。米子市は、神戸市程の規模はありませんが、鳥取大

学医学部、山陰労災病院、国立医療センター等と連携は図りながら、先端医療創造都市よなご構想を是非とも推し進めて頂きたいと考えます。その為には、地元の企業にもクロモセンターのよう企業がある訳ですから、当局には、もっと細かな目配りをして頂きたいと考えました。また、医療機関等とも密に連携をとり先端医療創造都市よなご構想を実のあるものにして頂きたいと考えました。我々会派の3名は、この度の視察をより良い米子実現の為に活かしていきたいと思えます。